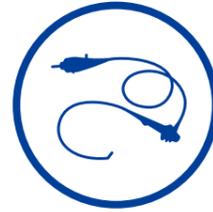


経営戦略における重点項目B

# B 内視鏡事業における 圧倒的ポジションの強化



Quadruple Aim (顧客満足度向上)と  
人々の健康を支える革新的な「診断と治療」の  
内視鏡ソリューションの創出を目指します”

エンドスコピックソリューションズディビジョンヘッド

河野 裕宣(左) フランク・ドレバロウスキー(右)



- 消化器内視鏡分野で世界シェア7割超
- 世界で初めて胃カメラの実用化に成功し、その後も世界をリードし続けるNBI/RDI/TXI/EDOFに代表される技術力
- 世界に約200の修理サービス拠点
- 外科内視鏡における4K/3D等、高画質・高品質の差別化製品を保有
- 多品種少量生産を実現するものづくり力
- さまざまな内視鏡のニーズに対応する強力な統合システムソリューション
- 充実したトレーニング施設の保有、プログラムの展開

**S**  
強み

- 外科イメージングで欧米競合が先行
- 医学的・経済的有用性を示すためのエビデンス獲得体制
- 自社開発によるイノベーションへの依存

**W**  
弱み

- 健康意識の向上、がん予防啓発による早期診断のニーズ拡大
- 新興国における内視鏡医不足、医療技術の向上余地
- 高齢化による症例数の増加
- 症例ベースの販売モデルの需要増
- シングルユース内視鏡市場の高い成長
- AI/CAD技術の需要
- 世界的なリプロセス(洗浄・消毒・滅菌)への意識の高まり

**O**  
機会

- 各国における医療機器への法規制強化
- 医療共同購買組織(GPO)、総合医療ネットワーク(IDN)の巨大化による価格下落圧力
- 医療機器業界再編による海外競合メーカーの台頭
- シングルユース内視鏡市場の成長に伴うリユース内視鏡市場への侵食
- リプロセス(洗浄・消毒・滅菌)への要求水準の高まり

**T**  
脅威

## 事業環境／事業成長のポイント

### 事業環境

消化器内視鏡

- 先進国における高齢化の進行、がん予防への意識の高まりによる症例数の増大
- 新興国における経済成長に伴う事業機会の拡大、手技普及に向けたトレーニングの要求
- 「質」の向上と「効率」の改善への要求
- 洗浄・消毒・滅菌プロセスへの関心の高まり

外科内視鏡

- 3Dシステムについては、中期的に成熟化が進むとともに、4Kにも対応したイメージャーやデータ伝送技術が普及することでFull 4Kシステムの導入が加速していく
- 特殊光観察技術においても各社とも独自の技術開発を進めており、市場へ普及していく

### 事業成長のポイント

- 消化器内視鏡のシェア維持と収益性の向上
- 外科内視鏡マーケットにおけるデファクトスタンダードの確立
- シングルユース内視鏡の成長拡大
- 内視鏡の販売形態進化(バリューベースの課金へのシフト)
- 新興国市場の内視鏡医療整備への貢献

## 目標と施策(2021年3月期~2023年3月期)

|                        |              |   |
|------------------------|--------------|---|
| リユース内視鏡の競争優位性堅持        | プロダクトイノベーション | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「EVIS X1」のNBI/RDI/TXI/EDOFなどの技術により、病変の発見、鑑別診断、病期診断、処置のそれぞれのシーンにおいて術者を支援し、内視鏡検査の質の向上に貢献</li> <li>● AI搭載CAD(コンピューター診断支援)装置を「EVIS X1」に導入</li> </ul> |
|                        | コマーシャルエクセレンス | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新機能による内視鏡診断の質の向上を示すクリニカルエビデンスによってバリュー・プロポジションを確立</li> </ul>  |
|                        | 地域市場の成長      | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高い成長余地のある新興国市場のドクタートレーニング支援を継続</li> </ul>  |
| シングルユース内視鏡によるポートフォリオ拡充 | 優先領域の商品開発    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 十二指腸鏡、胆道鏡、尿管鏡などのシングルユース商品開発を推進</li> </ul>  |
|                        | 開発・製造機能の強化   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● シングルユース内視鏡の開発・製造機能を強化するための戦略投資</li> </ul>  |
| 内視鏡の販売・サービスモデルの強化      |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 特定機種、地域によるエビデンスベース、症例ベース課金モデルを試験的に導入</li> <li>● リプロセスを含む、包括的な保守サービスプログラムの試行拡大</li> </ul>   |

売上高年平均成長率 ~6%

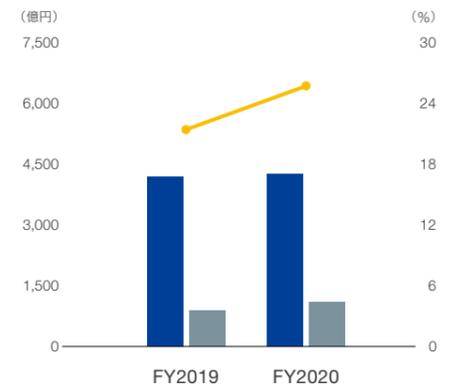
## 進捗

- RDI/TXI/EDOFなどの当社独自のイメージング機能を搭載した次世代消化器内視鏡システム「EVIS X1」を欧州、日本、アジア一部地域にて導入に成功
- 遠隔医療支援ソリューション「MedPresence」を発売し、世界規模の新型コロナウイルスの感染拡大の時期に医療機関へ「医療用バーチャル空間」を提供
- 消化器内視鏡のCAD(検出・鑑別診断)を搭載したAIシステム開発を推進
- 米国で手術用顕微鏡システム「ORBEYE」のIR(赤外光)/BL(青色光)機能の発売を準備中

## 今後の取り組み

- シングルユース内視鏡の追加によりポートフォリオを補完し、包括的な製品群を提供
- サービスベース、症例ベースのソリューションに向けて販売・サービスモデルを進化
- さまざまな機器からクラウドでのデータ収集を可能にし、サービス契約の提供を改善
- 米国・中国で「VISERA ELITE II」を発売

## 通期実績



|         |       |       |      |
|---------|-------|-------|------|
| ■ 売上高   | 4,188 | 4,257 | (億円) |
| ■ 営業利益  | 898   | 1,094 | (億円) |
| — 営業利益率 | 21.4% | 25.7% |      |

経営戦略における重点項目B

## 事業戦略

# 次世代消化器内視鏡システム 「EVIS X1」を導入

オリンパスは、「EVIS X1(イーヴィス エックスワン)」の導入によって内視鏡のリーディングカンパニーとしての位置づけを確固たるものとし、世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現を目指します。



## EVIS X1

オリンパスは、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を2020年4月に欧州・アジア一部地域で発売し、2020年7月には日本で販売を開始しました。前機種「EVIS EXERA III」「EVIS LUCERA ELITE」から約8年ぶりにモデルチェンジする当社最上位機種種の消化器内視鏡システムです。「EVIS X1」のグローバルキーメッセージは「Let's Be Clear—Elevating the Standard of Endoscopy」です。内視鏡による病変の発見・診断・治療の質や検査効率の向上を目指し、このメッセージを体現するさまざまな独自技術を搭載することで、がんなどの消化器疾患の早期発見・早期診断・低侵襲治療に貢献します。

### HISTORY

オリンパスは、第1号機となる「EVIS 1」を導入し、各国の内視鏡医のニーズが異なることに気づきました。その後、リアルタイム画像、スムーズで自然な動きの再現を優先した100 series、色再現性、最高品質の静止画像を搭載した200 seriesの2つのシステムによって、各国のニーズに応えてきました。そして、「EVIS X1」はこれらのニーズを1つの製品で応えるモデルです。

1985

EVIS 1

オリンパス最初の  
ビデオ内視鏡システム\*を導入

\*ビデオ内視鏡はCCDを用いて画像を電気信号に変えてモニターに伝送する仕組み。モニターを見ながらの検査が可能に。

1989

EVIS 100/130 series  
EVIS 200/230 series

各地域のニーズに合わせて、  
異なるイメージセンサーを  
搭載した100/200seriesの導入

**100 series:同時方式**

優れたリアルタイム画像、  
スムーズで自然な動きを再現

**200 series:面順次方式**

優れた色再現性、最高品質の静止画像

1996

EVIS 140 series  
EVIS 240 series

画質や挿入性など基本的な  
内視鏡パフォーマンスを改善

- 画質
- 光学性能
- 細径化
- 挿入性向上(新挿入部、硬度可変機能、スコープガイド)
- リプロセス性向上

2000~2002

100 Series EVIS EXERA  
200 Series EVIS LUCERA

- CCDの小型化
- ハイビジョンを搭載した内視鏡の導入

2006~2007

100 Series EVIS EXERA II  
200 Series EVIS LUCERA SPECTRUM

分光イメージング技術を駆使した  
IEE(Image-Enhanced  
Endoscopy)の導入

- NBI(狭帯域光観察)
- AFI(蛍光観察)

2012

100 Series EVIS EXERA III  
200 Series EVIS LUCERA ELITE

- IEE:明るさが向上したNBI
- 光学技術向上(拡大観察)
- 操作性技術の進化

### STRATEGY

グローバル統一プラットフォームを軸に、  
充実した製品ポートフォリオを展開

「EVIS X1」は、既存のシステムとの互換性を保ちつつ、グローバルでの統合を実現したシステムです。「EVIS X1」の統一プラットフォーム技術を最大限に活かし、「EVIS X1」専用のスコープに加え、既存の内視鏡システムで展開されてきたスコープとの互換性を確保することにより、バラエティーに富んだスコープラインアップを提供します。これにより、これまで使用できなかった、他地域で展開していたスコープを使用することが可能になります。例えば、小腸内視鏡システム「PowerSpiral(パワースパイラル)」は、EXERAシリーズとしてのみ展開している一方、超拡大内視鏡「Endocyto(エンドサイト)」は、LUCERAシリーズとしてのみ展開しています。このように、各地域の異なるニーズに対応して、導入製品を選定してきた背景等がありますが、昨今の内視鏡医のニーズの多様性にも対応すべく、グローバル統一プラットフォームを軸に、充実したポートフォリオを展開していきます。

「EVIS X1」の独自機能とともに  
臨床的価値を追求

当社は、これまで「NBI(狭帯域光観察)」をはじめとする内視鏡検査の質の向上に貢献する技術を開発してきました。今回、診断、治療の提供をサポートする「TXI(構造色彩強調機能)」「RDI(赤色光観察)」「EDOF(被写界深度拡大技術)」の3つの当社独自のイメージング技術を搭載しました。今後、これらの技術を「拾い上げ」「鑑別」「病期診断」、そして「治療」といったそれぞれのステージに対応させることにより、臨床的有用性を追求する活動を強化します。特に、「拾い上げ」における「TXI」、そして「鑑別」「病期診断」における、「EDOF」と「NBI」の組み合わせは、ゴールドスタンダードの手法として、世界の内視鏡医療への貢献を目指します。

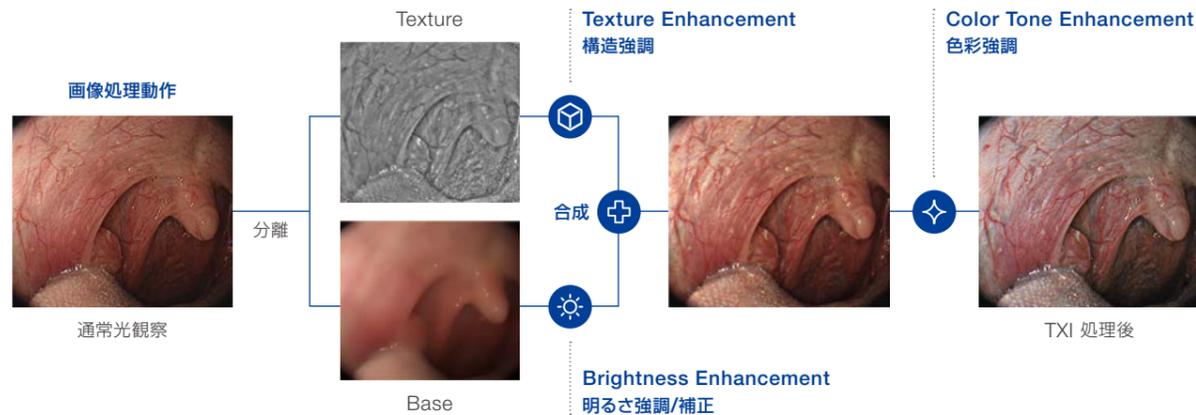
経営戦略における重点項目B

TECHNOLOGY

更なる治療・診断の向上をもたらすイメージング技術

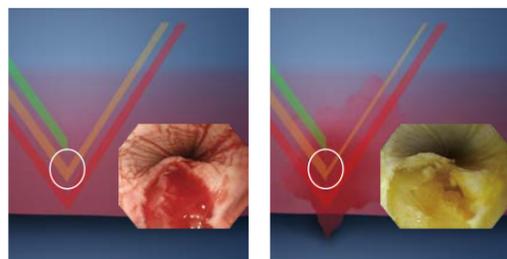
**TXI** 構造色彩強調機能

通常光観察下での粘膜表面の「構造」「色調」「明るさ」の3つの要素を最適化する画像技術です。通常光観察では見にくい画像上のわずかな色調や構造の変化が、TXIを活用することにより強調され、病変部などの観察性能向上に貢献することが期待されます。



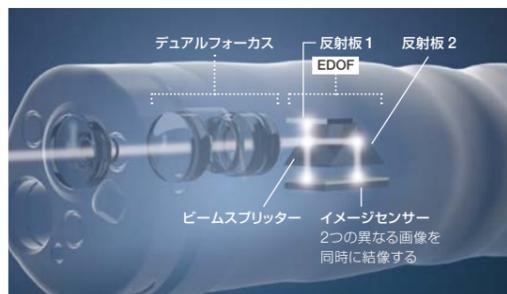
**RDI** 赤色光観察

緑・アンバー・赤の3色の特定の波長の光を照射することで、深部組織のコントラストを形成する、光デジタル技術を用いた当社独自の画像強調観察技術です。内視鏡治療中に発生する消化管出血により、視野が妨げられ病変部の処置が困難になるケースがあります。これは、治療時間の延長や医師のストレスにつながりますが、RDI観察を行うことにより深部血管などの視認性向上が支援され、迅速かつ容易な止血処置をサポートし、より安全で効率的な治療に寄与することが期待されます。



**EDOF** 被写界深度拡大技術

近い距離と遠い距離のそれぞれに焦点が合った2つの画像を同時に取り出して合成することで、リアルタイムに焦点範囲の広い内視鏡画像を得る技術です。本技術を当社内視鏡システム「EVIS X1」に搭載しました。これまで、内視鏡検査・治療を行う際、心臓の拍動や腸の蠕動運動がある状況での焦点合わせは、検査時間の延長や医師のストレスを招いていました。EDOFにより明瞭な観察画像が得られることで、内視鏡検査におけるさまざまな課題を解消し、検査時間短縮による効率化や病変の診断精度向上など、より高精度な検査への貢献が期待されます。



ドクターの視点

「EVIS X1」は、医療の現場にどのようなインパクトがあるのか、製品を使用していただいている昭和大学江東豊洲病院 消化器センター センター長・教授 井上 晴洋先生にお話を伺いました。



昭和大学江東豊洲病院  
消化器センター  
センター長・教授  
井上 晴洋先生

“スクリーニングから  
早期がんの診断、治療まで、  
内視鏡診療に貢献する製品です”

2020年、オリンパスはグローバル統一モデルである「EVIS X1」を導入しました。オリンパスが、胃や大腸といった管腔をリアルタイムに見ることができ、モニターを通じて医師、看護師を含むチーム全員で同じ画像を共有できる最初のビデオ内視鏡システムを導入したのは、今から約35年前のことです。その当時、欧米の医師はスムーズで自然な動きの再現を可能とする同時式を好み、日本の医師は優れた画像再現性、品質の高い静止画像が特長である面順次式を好んだと記憶しています。その後、オリンパスはそれぞれのニーズを2つの完成度の高い内視鏡システムを導入することで実現しました。しかし、徐々に日本の内視鏡医が国際的に活躍するようになると、日本と海外で異なる内視鏡システムを使わなければならない、混乱が生じるようになってきました。日本だけでなく、欧米の内視鏡医を含めて、内視鏡システムを統一して欲しいという要望があった中、今回、それぞれの既存システムと互換性を持つグローバル統一モデル「EVIS X1」が登場したのです。

「EVIS X1」にはさまざまな機能が搭載されています。まず、映像信号が4Kとなり、画面がきれいで明るくなりました。内視鏡検査はモニターを見ながら操作を行うため、画質が向上することにより精緻な手技が可能となり、検査時間の短縮にもつながるのではないかと思います。従来システムから搭載されているNBI（狭帯域光観察）についても、以前は少し暗かったのですが、今回は非常に明るい

画像になりました。NBIの他にも強調画像機能が搭載されています。TXI（構造色彩強調機能）は、病変やポリープ等、表面の凹凸や色調の変化が強調され、通常光と比較し、見落とし防止につながります。次に、RDI（赤色光観察）は、出血部分が黄色く見えるため、赤い血よりも分かりやすいのが特長です。RDIを使うことにより、どこから出血しているのかが見やすくなり、内視鏡治療における止血処置をサポートしてくれます。また、EDOF（被写界深度拡大技術）の機能搭載により、焦点深度の幅が広がり、ボタン1つで焦点を合わせることが可能となりました。今後、このEDOFによって、拡大観察の標準化が進むと期待しています。今まで

は医療制度や考え方の違いもあり、米国では日本ほど拡大観察が普及していませんでした。しかし、今回容易な焦点合わせをサポートする技術が登場したことにより、米国においても、拡大観察の診断学が受け入れられるようになるのではないかと考えています。このように、「EVIS X1」は、1本のスコープで診断から治療まで広範囲にカバーすることができます。内視鏡専門医だけでなく、一般のクリニックで内視鏡を行っている医師にとっても、早期がんの診断、治療が容易になるのではないかと考えています。

経営戦略における重点項目B

事業戦略

# 内視鏡事業の成長を牽引する中国市場

近年、2桁成長を続ける中国市場。当社の強み、市況、今後の成長ポテンシャルを解説します。

中国における  
オリンパスの強み・競争優位性



1972年に北京協和医院消化器内科主任であった陳敏章先生(左から2番目)が、東京大学助教であった藤田力也先生(左端)の操作説明の下で中国初の内視鏡検査を行っている様子

約**50**年

当社が中国市場に進出して  
現地の医師との信頼関係を  
構築してきた年数

約**23,000**人

過去5年間\*で当社の  
トレーニングプログラムに  
参加した医師の人数

\*FY2016~2020

BUSINESS

## 長年の信頼関係を活かし、事業基盤を強化

1972年、日中国交正常化の年に初めて中国で当社の内視鏡が使用されて以来、約50年にわたり当社は他社に先駆けて中国での事業基盤を強化してきました。当社がビジネスを拡大していくにあたり、内視鏡を操作できる医師を増やすことが大変重要でした。内視鏡は操作が難しく、トレーニングが不可欠であるため、当社は自社のトレーニングセンター等を活用し、内視鏡医の育成

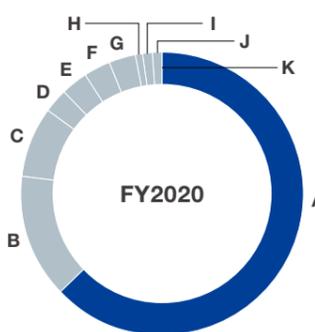
をサポートするとともに、病院や学会との連携も積極的に行っており、内視鏡検査・治療の普及に努めてまいりました。加えて、サービス拠点も設置し、アフターサービス体制を強化することで、内視鏡のメンテナンス・修理需要に应运てきました。今後もこのような取り組みをさらに強化していくことで、事業成長を実現していきたいと考えております。

### 人口10万人当たりの内視鏡医数

|        |       |
|--------|-------|
| 中国     | 2.2人  |
| マレーシア  | 1.7人  |
| ベトナム   | 0.6人  |
| インド    | 0.5人  |
| タイ     | 0.4人  |
| フィリピン  | 0.4人  |
| インドネシア | 0.2人  |
| [参考]日本 | 25.0人 |

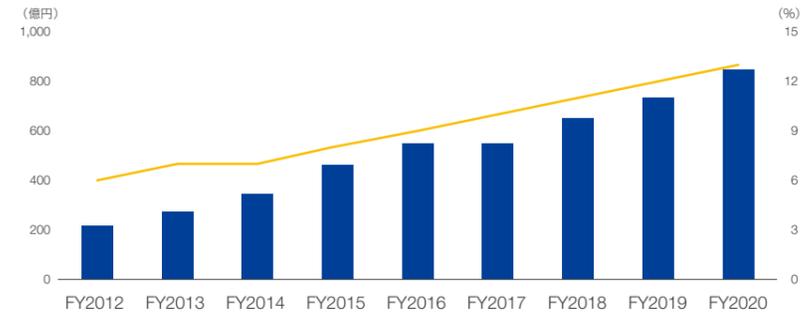
出所:一般公表データより当社作成

### アジア・オセアニア地域の国別売上高比率



- A 中国
- B 韓国
- C オーストラリア
- D インド
- E 香港
- F シンガポール
- G タイ
- H ニュージーランド
- I ベトナム
- J マレーシア
- K その他

### 医療分野における中国の売上成長推移



約**3.9**倍

中国市場の2020年3月期と  
2012年3月期の売上高を  
比較した数字

PERFORMANCE

## 2級病院への販売が好調に推移し、高い成長を実現

中国は病院の等級によって医療水準に開きがあり、大病院、すなわち3級病院に患者さんが集中する傾向があります。この状況を解消することを目的として、中国政府がさまざまな施策を展開してきました。2011年に発表された「衛生事業発展第12次5か年計画」、2016年に発表された「健康中国2030」「衛生事業発展第13次5か年計画」等により、末端の医療衛生機関の標準化や医療水準の向上、予防医療を強化する方針が打ち出されました。また2019年に発表された「県級病院総合能力レベルアップ計画」では500の県級病院と500の中医病院を3級病院または3級中医病院と同等の医療水準に引き上げることを目指す方針も掲げられました。国家レベルでの予防医療強化の流れに合わせ、2級病院においても新たに予算が付与され、病院の新設や設備投資が積極的に行われるようになり、販売が増加したことで、近年目覚ましい成長を実現しています。(2020年3月期の内視鏡事業の現地通貨別成長率: +28%)

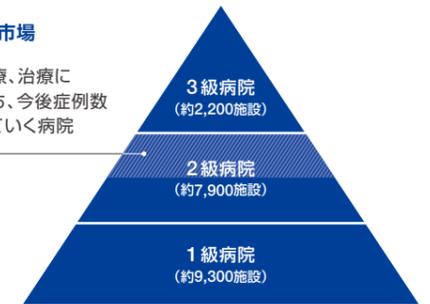
STRATEGY

## 今後の事業戦略

中国では、発生率、死亡率ともに高い胃がんや食道がんを早期に発見し治療することで患者さんのQOL向上、医療費低減に大きく貢献できます。そのため早期がん診断に注力し、2級病院のハイエンド設備購入にも結びついており、今後の市場成長余地が大きいと考えています。各地の医療従事者のニーズに応えるため、製品や手技に関する専門サイトを立ち上げ、オンラインによる情報提供も強化しています。今後も、病院・学会等との連携を通じて、内視鏡による早期発見、早期診断から内視鏡下、腹腔鏡下による低侵襲治療まで一貫した価値提供を継続していきます。

### 中国の潜在市場

先進の診療、治療に興味を持ち、今後症例数が増加していく病院



COLUMN



オンラインによる機器のトレーニング

## 新型コロナウイルス感染症に関する当社の対応

2020年1月下旬から、新型コロナウイルスの感染が急速に拡大しました。中国武漢では、新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れるために、病院がわずか10日間で建設されました。当社はこの病院に内視鏡システムを設置するため、従業員を派遣し、内視鏡による検査・治療等ができる環境を整備しました。またニューノーマルに適したトレーニングを提供する目的から、自社トレーニングセンター内にオンライントレーニング用の部屋を設け、病院とつなぐことで、機材の安全・有効な使用トレーニングが適時に受けられるサポート体制を強化しています。

経営戦略における重点項目B

## 患者さん・医療従事者の皆さまに医療機器を安全にご使用いただくためのリプロセス(洗浄・消毒・滅菌)強化の取り組み

オリンパスは内視鏡医療の長い歴史を通じ、診断領域から治療領域にわたって高性能な医療機器の提供を実現してきました。また、オリンパスは内視鏡医療の進歩が患者さんのケアにおいて重要な役割を果たしていると考えています。一方、内視鏡に関連した感染事例の報告があったことから、リユース内視鏡を安全かつ効果的にご使用いただくための重要な要素である内視鏡リプロセスに対して、行政や病院からの注目が高まっています。加えて、近年新種の細菌やウイルス(具体的には多剤耐性菌や新型コロナウイルス)が登場したことで、医療業界において感染リスクに対する意識が高まっています。オリンパスは感染予防における重要な役割を果たすとともに、医療従事者の皆さまに安全で効果的な製品を提供するための努力を続けていきます。

### 患者さんの安全を最優先に

オリンパスは患者さんの健康と安全を最優先に考えています。感染予防は医療従事者の皆さまだけでなく、医療機器メーカーにとっても大きな課題です。医療従事者の皆さまが患者さんのケアに注力していただけるよう、オリンパスは全力で内視鏡リプロセスにおける工程を包括的に支援します。オリンパスの製品を安全に、効果的に、かつ、意図した通りにご使用いただけるように、定期メンテナンスサービス(保守管理)やトレーニングの提供に努めます。製品の安全性の向上を追求する医学団体・業界団体とのパートナーシップを強化し、より良いリプロセス工程の構築を行ってまいります。また、さらなる安全を実現するための内視鏡設計の変革を目指し、革新的で信頼性の高い次世代製品の提供を推進していきます。



リプロセス手順を簡素化し、効率を最大限に高めるため、ベッドサイド洗浄、漏水検知、自動内視鏡洗浄消毒、運搬、保管、乾燥までをサポートする製品を継続的に提供していきます。



トレーニングサポートの実施、包括的なサービスパッケージ、幅広いサポートネットワーク、最先端のワークフロー管理を提供します。

### 医療現場から得た知見をさらなる進歩の糧に

オリンパスでは、内視鏡を製品化した後、それらの製品が実際の医療現場でどのように使用され、どのような状態でリプロセスされているかを自主的に調査しています。その調査から、オリンパスは内視鏡と内視鏡リプロセスをより良くするための情報を得ています。その情報を活用したオリンパスの内視鏡は、医療従事者の皆さまによる医療行為が最大限の患者さんのアウトカムを得られるようなより安全かつ効果的なものになっていくと考えています。

十二指腸内視鏡と呼ばれる内視鏡については、米国行政機関であるFDA (Food and Drug Administration: 米食品医薬品局)からの指示に基づき、市販後調査と呼ばれる綿密な調査を実施しました。この調査においては、米国各地の15以上の病院にご協力をいただき、約3年をかけて2,000件以上のサンプルを取得しました。



米国の病院から  
2,000件以上のサンプルを取得

### 病院との活動

十二指腸内視鏡に関する米国市販後調査では、実際に病院を訪問し、医療現場における実際の内視鏡の状態や内視鏡リプロセス作業の確認、リプロセス後の内視鏡から取ったサンプルにおける残菌の有無、残菌があった場合の遺伝子レベルの解析や原因調査を行いました。



サンプル取得作業の様子



内視鏡先端部からの  
サンプル採取



サンプル採取した  
菌の分析

### リプロセス後の残菌を分析する

この調査から、ほとんどの症例では内視鏡は安全とされる状態にリプロセスされていることがわかりました。また、この調査において症例で使用された内視鏡から検出された菌を分析することは、感染予防の向上にむけた内視鏡リプロセスの強化に寄与すると考えています。残菌があったこと(残菌率)は患者さんに感染があったこと(感染率)を意味せず、実際に市販後調査においては一人の患者さんの感染も報告されていませんが、詳細な解析から過半数の事例において不十分な内視鏡洗浄が原因と考えられる残菌があったことが判明しました。このような解析によって、より良い内視鏡リプロセスを構築するにあたり有用なデータを多く得ることができました。

なお、米国における十二指腸鏡が用いられた症例での実際の感染の発生は減少傾向にあり、米国及び世界にて行われる十二指腸鏡が用いられた症例の全体に対して非常に低い発生率に収まっています。

\*FDA.gov <<https://www.fda.gov/media/132346/download>> [Accessed Oct 2, 2020]; based on 2018 patient infection data

### 医療現場の方々をサポートするために

オリンパスではこれらの結果を受けて、病院での内視鏡リプロセスを強化する策を積極的に展開しています。具体的には、内視鏡の状態を維持する定期メンテナンスプログラムの充実、医療従事者の皆さまへのトレーニングの強化、より分かりやすい取扱説明書の作成、より洗いやすい内視鏡の開発・普及です。オリンパスは内視鏡医療における患者さんの安全を重視し、現場の医療従事者の皆さまと協力しながら、患者さんの健康と安心の実現に取り組んでいきます。



定期メンテナンス  
プログラムの充実



医療従事者への  
トレーニングの強化



分かりやすい  
取扱説明書



より洗いやすい  
内視鏡

### COLUMN



### 最新の内視鏡(十二指腸内視鏡)をお使いいただくために

オリンパスは近年先端キャップを着脱可能にした十二指腸鏡を市場に導入しました。医療従事者の皆さまが内視鏡先端周りの複雑な構造をより見やすく、より洗いやすくする工夫がなされた新しい内視鏡です。この先端キャップ着脱式の十二指腸内視鏡は欧州・アジア・日本にすでに導入されていましたが、2020年1月にFDAから認可を得たことで、米国でも本製品を広く提供できる体制が整いました。これまでの先端キャップ固定式の十二指腸内視鏡についても安全にご使用いただけますが、感染予防の取り組みを進めるべく、各地の行政と協力しながら、これまでの十二指腸内視鏡を新しい「より洗いやすい内視鏡」に置き換える活動を自主的に進めています。